

人々をつなげる活動

東日本大震災発生直後、自ら被災者でありながら、がれきをどかして道路を広げたり食料を調達したりする人たちがいました。その後、様々な公的機関や団体が多くの人々のために活動を行ってきました。どのようにして、多くの人が自分のできる活動に献身的に取り組み、力をつくして災害に対処したかをふり返ってみましょう。

1 広域協力体制、公的な機関の活動

避難誘導、救助活動、避難所運営、ガス・水道・電気などのライフライン復旧、物流確保のために、警察・消防・自衛隊・海上保安庁・他市の行政機関など、たくさんの応援がきました。また相互支援協定を結んでいる地区からの支援もありました。



震災直後、自衛隊や警察・消防隊が進めるように道路を広げる建設業の方々



他県からのガス・水道復旧工事支援



行方不明者をさがす海上保安庁の潜水士



自衛隊による救援物資輸送

2 日本赤十字社の活動、JRC(青少年赤十字)

日本赤十字社は、医療支援に加えて、各都道府県からの救援物資を被災地に届けました。また青少年赤十字のメンバーも地元の赤十字奉仕団と協力して、支援活動を行いました。



救援物資を運び出すスタッフ



被災された方へ救援物資を手わたすスタッフ



物資を配布する地域の方々と青少年赤十字メンバー

【物資搬送スタッフの声】

発災当日は、大きな余震が続く中、自分の家族の安否も分からず、不安な気持ちもありました。しかし、私たちの助けを必要としている人がいると思い、いっこくも早く救援物資をとどけたいという気持ちで仕事を行っていました。また県外から救援物資がとどいたときは、物資をとどけるだけでなく、支援してくれた方の気持ちも被災者の方にとどけたいと思いました。

【医療スタッフの声】

石巻赤十字病院では、多くのスタッフが家族や自宅を失いましたが、「患者さんのためになりたい」というスタッフの意志はおとろえませんでした。

次々に運ばれてくる患者さんを前に、みんな夢中で一人でも多く救いたいとの思いで対応に当たりました。